

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」
事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 北九州市 】

学校名【 北九州市立西小倉小学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ V（複数選択可）
2 実施対象者 （学年・人数）	4年生 154名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（ 総合的な学習の時間 ）</p> <p>② 行事名（ ）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 （ねらい）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目が不自由な生活の苦勞や工夫を知ることを通して、障がいをもった方と共生する社会について考えられるようにする。 ・ ゴールボールの選手の話を知ったり、体験をしたりして、誰もが幸せに生き生きと生活するために必要なことについて考えをもち、実践していこうとする心情が養われるようにする。
5 取組内容	<p>講演会・体験会の前に、4年生児童を対象に、オリンピックやパラリンピックの歴史や意義、ゴールボールについての紹介等を行った。その後、ロンドン2012パラリンピック金メダリスト小宮正江選手、東京2020パラリンピック男子ゴールボールの工藤力也コーチを講師として招き講演会・体験会を行った。また、学年を2つに分け、体験会と並行して教務主任が「I'm POSSIBLE」を使った授業を行った</p> <p>○ 講演会（50分）</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>小宮選手から、目が見えないために生活の中で困っていることや工夫していること、目が不自由な方と接する時に、児童に知っておいてもらいたいことなどを講演の中で話していただいた。</p> </div> </div> <div style="display: flex; align-items: flex-start; margin-top: 10px;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>視力を失ってもできることを最大限活かし、ゴールボールに挑戦してきたことや「苦手なことでも、ポジティブに捉え、チャレンジしていくことが大切」という小宮選手が大切にしている考え方を紹介していただいた。</p> </div> </div>

	 <p>また、小宮選手、工藤コーチにゴールボールを実演していただき、日本のトップレベルがどのようなボールを投げるのか、そしてどのように捕るのかを見せていただいた。</p> <p>○ ゴールボール体験会（25分）</p>  <p>講演会の後、実際にゴールボールを体験した。5名1組のグループを作り、実際にゲームを行った。持参したタオルをアイシェードの代わりにして、ゴールボールの体験を行い、ゴールボールの面白さや難しさを体験することができた。体験を通して、ゴールボール選手のすごさを感じるとともに、目が見えないということがどのような状態であるかということを経験した。</p>  <p>○ 「I'm POSSIBLE」を使った授業（25分）</p>  <p>東京2020パラリンピックのレガシーについて考えるために「I'm POSSIBLE」を活用した授業を行った。</p> <p>その中で、共生社会の実現に向けて現在行われている取組や大切な考え方について学んだ。</p>
6 主な成果	<p>○ 小宮選手から実際に話を聞いたり、ゴールボールを体験したりすることを通して、目が不自由な立場になって考え、障がいをもった方との共生ということについて考えることができた。</p> <p>○ パラリンピアンから、困難なことがあっても、自分も前向きに頑張ろうとする気持ちをもつことができた。</p>
7 実践において工夫した点（事業の特色）	<p>○ 昨年度はコロナ禍のため中止となったが、小宮選手には本校に継続して講演に来ていただいている。同じ方に継続してきていただくことで、本校児童の実態を理解していただき、より活発な交流となった。</p> <p>○ 事前指導で、パラリンピックの歴史や意義、ゴールボールの紹介を行ったことで、より興味をもって学習に参加をする姿が多く見られた。</p>
8 主な課題等	<p>○ 事後指導をよりしっかりと計画をたてて行うことで、成果をさらにあげることができると考えられる。総合的な学習の時間の単元の計画を明確に行うことが大切である。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>○ 来年度もできれば継続してパラリンピアンを招いての講演会・体験会などを行いたい。総合的な学習の時間との関連を図り、事前指導・事後指導をより意図的・計画的に行う。</p>